

RPHA19 参加報告書

大阪大学 北田研究室

修士 1 年 大内 浩生

2020 年 1 月 20 日

2019 年 12 月 1 日～3 日にかけて、Osaka International Foundation House にて開催された国際学会 “Reactor PHysics in Asia 19” に参加し、「Effect of Neutron Absorber on Production of Plutonium238 for BWR Assembly」という研究テーマで発表させていただきました。この参加報告書では、初めて国際学会に参加した学生の体験談を述べたいと思います。

RPHA は Reactor PHysics in Asia という名前通り、アジア地域での炉物理に関する国際学会で、中国・韓国・日本の 3 か国間で 2 年おきに開催されています。今回は 3 回目の開催であり、日本で初めて開かれる RPHA でした。我々にとって初めての国際学会でしたが、「日本・大阪」という地元で開催された学会となりました。国際学会というと海外の文化の違いに衝撃を受け、現地人との交流に刺激を受けるようなイメージでしたが、実際は電車で 1 時間以内に行くことのできる会場ということもあり、あまり非日常感は受けませんでした。1 日目のレセプションは“シェラトン都ホテル”という非常に豪華なホテルで開催されました。会場内では、大きなクリスマスツリーや巨大なシャンデリアが飾られていました。本学会は大阪での開催でしたが、これまでの国内学会は大学が会場でしたので、この豪華さこそが国際学会の醍醐味であると感じました。料理は非常に美味しく、寿司や刺身といった日本固有の文化を前面に押し出すコンセプトが現れていたと思いました。レセプションでは、RPHA での発表者が多数参加していましたが、直感として日本人が半数以上いたように思われました。他学会や原子力実習等で知り合った他大学の学生も多く参加しており、久々の再会を喜び、交流をさらに深めました。また、知り合いの学生に紹介してもらったりして (B4 の参加者がいることに驚きながらも) 交流の輪を広げることができました。また、中国人大学生の参加者も紹介してもらい、慣れない英語に苦戦しながらも気を遣ってゆっくりはっきりとした発音で話してくれたおかげで、研究の話だけでなく、個人的な趣味の話にまで幅広く花を咲かせることができ、大変貴重な経験となったように思います。



レセプションの様子

2 日目が発表 1 日目で、会場は大阪国際交流センターで行われました（シェラトンホテルではないことに少しの残念さを感じましたが…）。当センターの **Sakura Higashi** で開会式が行われました。各国の代表者から、母国の原子力や炉物理研究についての現状について発表が行われましたが、このセッションの直後に私の発表が控えていたこともあり、正直なところ緊張のあまり耳に入ってきませんでした。**Sakura Higashi** 以外の発表会場は 20 人程度が座れる規模の部屋でしたが、発表時には立ち見の見学者がいるほど多くの聴講者でにぎわいました。私の発表の前に他学生の発表を聞いていると、研究内容の水準の高さや英語技能の高さに感服し、私の発表内容に不安を感じていました。いざ発表となると、それまで続いていた緊張感がなくなり、先生や研究室の仲間と発表練習した成果を発揮しようという気持ちで臨んでいました。発表中には怖い顔で睨んでくる（ように感じた）人がいたり、逆に相槌などで安心感を与えてくれる人がいたりして、発表独特のこの雰囲気には中々慣れないなと感じました。発表が終わると質疑応答の時間になり、5 人近くの人が手を挙げて下さったので、予想外の展開に驚きを隠せませんでした。質問者の話す内容を正確に聞き取れているか不安に感じながらも、私なりの答えを何とか話すと、咄嗟に別の研究者からアドバイスが飛んできたりして議論が白熱していました。無事(?)に発表が終わると大きな解放感に包まれ、先生からも悪くなかったよという言葉がいただくことができ、努力が報われた思いでした。また、セッション終了後に中国人の研究者から後ほどディスカッションをしたいという誘いをいただきました。他の発表者の方々の発表を聞いていると、プレゼンテーションの所作が大変上手な方もいて、非常に参考になりました。また、私の研究内容とは異なるテーマの発表を聞くことによって、炉物理に関する知識がさらに深まったように感じました。

また、今回の RPHA は日本開催であることもあり、ホスト国の学生である我々は各セッションのチェアマンの補佐を任されました。用意したケーブルが発表者のパソコンに繋がらず、パニックになり慌ててしまった瞬間もありましたが、無事補佐の役割を果たすことができましたと思います。大変貴重な経験となりました。



学会発表中の様子

3 日目は学会発表をすでに終えていたので、様々な方の発表を拝聴しておりました。国際学会なので大きな会場で発表すると思っていたのですが、実際は大学の小さな講義室程度の会場でした。しかし、発表会場には多くの人々が集まっており、活発な議論が行われている印象を受け、程よい緊張感を持って参加させていただくことができました。

学会中のコーヒーマイクでは、様々なお菓子の提供があり、美味しくいただきました。

最後に、RPHA19 での発表は、多くの方に支えられて無事に終えることができました。お世話になりました皆様に感謝いたします。ありがとうございました。